

## ✠042 神殿の再建

BC538 にアケメネス朝ペルシアの王位（初代国王）を継承したキュロスⅡ（在位：BC559～529）※1 は、エルサレム市街地の復興とエルサレム神殿（第二神殿）※2 の再建を行った。

「しかし、バビロンの王キュロスはその治世の第一年に、この神殿の再建をお命じになった。」

（エズラ記 5：13）

\*\*\*\*\*

※1：古代エジプトを除く全ての古代オリエント諸国を統一して空前の大帝国を建設した。キュロスは、被征服諸民族に対して寛大であったので、後世に理想的な帝王（諸王の王）として仰がれ、ユダヤ人を解放したことから旧約聖書ではメシア（救世主）と呼ばれている（イザヤ書 45 章 1 節）。

アケメネス朝ペルシアの

※2：第二神殿とは、BC516 から AD70 までの間エルサレムの神殿の丘に建っていたユダヤ人の重要な神殿（エルサレム神殿）である。それは BC586 年のバビロン捕囚の際に破壊されたソロモンの第一神殿に代わって建設された。

\*\*\*\*\*

ユダヤ人がキュロスⅡの命令によってバビロン捕囚から解放されエルサレムに戻った際、ユダヤ人たちがバビロンに捕囚されていたおよそ 70 年の間破壊されたまま放置されていたソロモンの第一神殿があった場所で神殿の建設が始まった。ユダヤ人が捕囚されて空白となったエルサレムに別の場所から移住してきた他民族が神殿の建設に反対したため、短期間の建設休止があったが、BC521、アケメネス朝ペルシアの王ダレイオスⅠの下で神殿の建設は再開され、BC517/518、ダレイオスⅠの統治 6 年目のアダル月の 3 日に完成し、神殿で奉獻式が行われた（捕囚から帰還してから 20 年以上後の BC516 年の春には奉獻の準備ができていた）。

ハガイ書には、第二神殿の栄光が第一神殿のそれよりも大きくなるという預言されている（ハガイ 2：9）。

BC20 から BC19、ヘロデ大王は第二神殿の修繕と大拡張工事を行い、それはヘロデ神殿※3 として知られている。

\*\*\*\*\*

※3：ヘロデ神殿

ヘロデ王の下での神殿の再建は神殿の丘の大規模な拡張から始まった。宗教的な崇拝と神殿での儀式は神殿の再建が行われる中、続けられた。ユダヤ属州の大規模な反乱（ユダヤ戦争）の後、70 年のエルサレム攻囲戦においてティトゥス率いるローマ軍団によって神殿は破壊された。これを記した最も完全な古代の記述はヨセフスのユダヤ戦記である。後のローマの属州総督は神殿の遺構を使って宮殿やユピテルの神殿、ビザンティン教会を築いた。そのような神殿の遺構は、687 年から 691 年の間に岩のドームが建設されるまで解体されずに残っていた。祭壇に加え、岩のドームに繋がる階段（岩のドームはヘロデ以前からある神殿の丘の祭壇の壁の頂上に作られている）を含む地上に出ている神殿の遺構はいくつか残っている。神殿自体は、今日岩のドームがある場所に建てられており、出口の門はアル＝アクサー・モスクの近くにあった

ヘロデ神殿の建設は、BC1 世紀の大きな建設事業の 1 つであった。ヘロデ大王はこの事業を通じて彼

の名を永遠のものにすることに関心を寄せており、彼の事業は非常に広範囲に渡るものであった。彼はマサダ、カエサレアおよびティベリアに荘厳な宮殿を有していた。彼は非ユダヤ人の民衆に貢献するために様々な異教徒の神のための神殿を建設し、その資金は地元のユダヤ人に重税を課すことで賄われた。しかし、彼の事業の最高傑作はエルサレムの神殿だった。ゼルバベルによって建設された古い神殿は華麗な建築物に取り換えられた。ヘロデ大王とユダヤ教の宗教指導者との間で、建設中の全ての期間においてコルバンと呼ばれる生贄の儀式を続けられるようにすることおよび、神殿自身の建設はコハニム（アロンの子孫で司祭階級のユダヤ人）によって行われることとする合意がなされた。

\*\*\*\*\*  
ローマ帝国は皇帝のティトゥスの下で AD66 年にユダヤ戦争を始め、ユダヤ人の敗北が決定的になった AD70 年のエルサレム包囲戦においてエルサレムと第二神殿は破壊された。以後エルサレム神殿は再建されることはなかった。西の壁の下部はヘロデ神殿の遺構を残す数少ない部分であり、「嘆きの壁」として現存している。

#### マカバイによる奪回

アレクサンドロスⅢによるユダヤ征服から、シリアの王アンティオコスⅢがパニオンの戦いでエジプトのアンティオコスⅢを破った BC200 までの間、ユダヤはプトレマイオス朝エジプトの一部であった。この戦いの後、ユダヤはセレウコス朝シリアの一部となった。エルサレムの第二神殿が略奪され礼拝が止まったとき、ユダヤ教は実質的に非合法化された。BC167、アンティオコスⅢは神殿にゼウスへの祭壇を築くよう要請した。彼はまた割礼を禁止し、神殿の祭壇で豚を生贄に捧げるよう命令した。セレウコス朝に対するマカバイ戦争の後に第二神殿は奪回され、ユダヤ人王朝であるハスモン朝の宗教的な柱となり、ユダヤ人の祝日であるハヌカーと文化的に結び付いた。